

地域・文化分野（人文・社会科学科目群）

① 人類学関係科目の分類

人類学関係科目は、文化人類学および下位分野の一般的な内容を講義する基礎論（文化人類学Ⅰ・Ⅱ、生態人類学Ⅰ・Ⅱ等）、より限定的な内容を講義する各論（文化人類学各論Ⅰ・Ⅱ、宗教人類学等）の講義科目、少人数で講読や発表を行う調査演習・ゼミナールで構成されている。

講義科目の基礎論・各論ともに、世界各地の多様な環境のもとにある人間の生活を主題としており、知的興味さえあれば文系・理系を問わず、初学者でも受講可能な授業内容となっている。講義で扱う内容は、担当教員の専門により多彩である。そのため、受講希望者は、自身の学習目標を主体的に設定し、シラバスで講義内容を十分に確認した上で、複数の講義科目を選択して履修することが望ましい。

演習・ゼミナールは、講義科目履修者または既修者の受講が望ましい（必須ではない）。ILAS セミナー（文化人類学調査法・社会人類学調査法）および調査演習は、人類学的研究に必須の調査方法であるフィールドワークの基本を学ぶ少人数科目であり、文献講読のほか、調査計画立案、参与観察による資料収集、資料分析と提示の方法を実践的に習得することを目指す。地域研究ゼミナールは、アジアやアフリカ地域における人類学的文献を講読する。

② 地理学関係科目の分類

地理学関係科目は、基礎論としての「人文地理学」、「地域地理学」、「自然地理学」と、都市・村落・歴史地理・地域情報・経済地理あるいは日本・欧米・アジアアフリカに関して踏み込んで考える各論、そして少人数で行う基礎ゼミナールからなる。これに地理学関係教員が担当する ILAS セミナーが加わる。

高校までの地理教育は、世界の諸地域について事項を学ぶ科目としてとらえられがちであるが、大学で学ぶ地理学科目は、世界諸地域の多様性を重視しつつ、環境と地域文化との関連や文化間の相互作用の考察を通して地域の成り立ちを明らかにするものである。基礎論・各論それぞれ対象や方法は幅広く多様であるが、特色として「地図を読む」、「地図で描く」ことを通じた空間的なものの見方の重視をあげることができよう。

基礎ゼミナール科目は、地図の読解・作成やコンピュータによる地理情報の分析・表示など実習を含むものである。ILAS セミナーでは、主に文献講読や受講者各自の研究発表を行う。

③ 環境構成論関係科目の分類

環境構成論関係科目は、建築および建築によって構成される環境（都市・集落）を扱う科目群である。とりわけ建築と環境の歴史とその保全をテーマとしている。世界遺産登録に象徴されるように、わが国の歴史的環境や資源の保全と活用への期待は、今後ますます高まっていくことが予想される。そうした動きは現在、遺産学という大きな枠組みで世界レベルの議論へと拡大すると同時に、われわれの身近なまちづくりにおいても必須の要件として認知されるに至っている。環境構成論科目は、その基礎的事項を講じると同時に、最前線の状況を紹介するものである。「都市空間論」が基盤となる内容を扱う基礎論、「都市空間保全論」、「都市空間史論」などが個別のテーマを取り上げる各論、「都市空間基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」が少人数で講読・研究発表・見学会などを行うゼミ形式の科目となっている。担当教員の専門によって、取り上げる建物や地域、また研究の視点や方法論等が異なるため、各科目の内容はシラバスで確認していただきたい。

特に必要となる予備知識はなく、理系・文系を問わず履修することが出来る内容となっている。また、各科目は、それぞれ独立した内容となっており、単独での履修も問題はない。もちろん、当該分野の幅広い知識を得、かつ理解を深めるためには、連続して履修する、あるいは複数の教員の科目を履修することが望ましい。さらに体系的に学びたい学生は、建築系の科目や環境系の科目と併せて履修することをお勧めする。